

令和2年度 第3回 札幌市地震被害想定検討委員会

日時：令和3年3月22日（月） 14時00分～15時15分

開催方法：オンラインによるWeb会議

1 出席者（敬称略）

【委員】（○は委員長）

室蘭工業大学 大学院工学研究科	准教授	有村 幹治
北海道大学 大学院工学研究院	教授	石川 達也
北海学園大学 経済学部	准教授	大貝 健二
北海道立総合研究機構 エネルギー・環境・地質研究所	研究推進室長	大津 直
北海道大学 大学院工学研究院	特任教授	今 日出人
北海道大学 大学院理学研究院	教授	谷岡 勇市郎○

以上、6名出席

【事務局】

札幌市

危機管理対策室長	荻田 葉一
危機管理対策部長	永澤 美樹
計画・原子力災害対策担当課長	松坂 彰
防災計画担当係長	後藤 昌範
防災計画担当	藤澤 秀行

【事務局補助】

（株）エイト日本技術開発

2 議事概要

(1) 議事説明

【事務局】

資料に沿って議事内容を説明

(2) 質疑応答・意見

【委員】

車中泊避難については、避難先となる学校のグラウンドや公園等のキャパシティを確認することが必要と思う。

【委員】

道路・河川など土木管理施設の復旧に関わるのは建設業者である。建設業者、資材の確保についても考えておく必要がある。建設業者や資材の確保は、国や道

との調整も必要になると思われる。協定締結等も重要である。

【事務局】

ご指摘の通り重要な点であり、検討しているところである。今回の地震被害想定の結果を踏まえ、BCP等の見直しを検討する。

【委員】

復旧に関する具体的な検討を進めていく上で、国道、道道、市道それぞれについて、影響度ランク毎の延長を示すことが有効と思われる。次回委員会に示せないか。

【事務局】

確認して、次回お示しできるように準備する。

【委員】

今回の地震被害想定見直しでは、被害想定手法の変更により、現行の被害想定よりも被害が小さくなった項目が少なくない。被害想定が小さくなることを楽観視されないように情報発信する必要がある。

【事務局】

現行の被害想定よりも小さくなっているが、被害はまだ大きいものであると受け止めている。来年度予定している地震防災マップ作成等において、周知できるように考えていく。

【委員】

各ライフラインの復旧日数算定に使用している回帰線は、今回の地震被害想定において新たに提案されているものである。回帰線作成に使用しているデータの選択理由を明確に示した方がよい。

【事務局】

次回にお示ししたい。

【委員長】

委員からの意見を踏まえ、本日の委員会結果について検討を進め、次回委員会にて示すとともに、この想定をもとに今後の作業を進めていくと結論付けたい。

【事務局】

令和3年度の第1回委員会は令和3年6月を予定している。